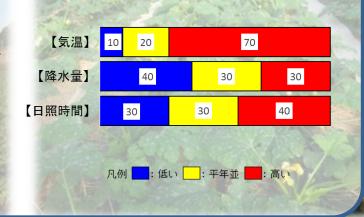
2023 2023 3

今月の情報

- 1. 水稲作のポイント 種籾の播種と育苗管理について
- 2. 園芸野菜 病害虫防除情報
- 3. 果樹(ナシ) 病害虫防除情報
- 4. 「農福連携」事例のご紹介
- 5. 安全な農作物生産の取り組みについて
 - ~改善をつづけるために~

3月の気象について(気象庁3/2発表 長期予報(1か月)から)

寒さも弱まり、春の訪れを感じる気候となってきました。水稲や梨も本格的にシーズンが始まります。3月は気温が平年よりもかなり高くなり、晴れの日が多い予想となっています。あたたかくなり、病害虫の発生リスクも高まりますので、注意しながら管理しましょう。



<農薬の残留に注意!>

- ①農薬の使用基準は守りましょう!
- ②周囲への農薬飛散「ドリフト」対策を行いましょう!
- ③散布器具は毎回しっかりと洗浄しましょう!
- ④農薬散布記録簿への記帳は忘れずに!



注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

水稲作のポイント 種材の播種と育苗管理について

J A全農ちば 営農支援部

種子の配布も始まり水稲作付けがいよいよスタートします。

近年、気象が極端化しています。「突発的な高温・低温」に注意しましょう。また、播種や 移植時期の早限を越えると、冷害の危険性(特に植付の早い早生品種や低温に弱い品種)がありま すので、適期播種・適期植え付けをしっかりと守り、良質な苗の移植を行いましょう。

1. 千葉県の播種・移植時期の早限及び出穂期の目安

各品種の耐冷性を考慮した播種・移植の早限は下記のとおりとなります。

			地	域		_
品 種 名	安原	房・東京湾岸南	 南部		その他の全域	
	播種	植え付け	出穂期	播種	移植	出穂期
ふさおとめ						
ふさこがね	3月20日	4月15日	7月15日	3月25日	4月20日	7月20日
コシヒカリ		4月15日 	7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		47201	7 A Z O H
粒すけ						

※稲作標準技術体系(千葉県・千葉県農林水産技術会議)より抜粋

2. 種子消毒について

種子伝染性の病害である「ばか苗病」・「いもち病」・「細菌性苗立枯(もみ枯細菌病、 苗立枯細菌病、褐条病)」などの発生を防ぐために行います。

種子伝染性病害の多くは、種籾の周りや内部に侵入した病原菌が、育苗箱中に発生するため、 事前の種子消毒による防除が重要です。※種子消毒の動画を JA 全農ちばホームページにて公開 中です。

種子消毒剤及び使用方法

- ・ヘルシードTフロアブル 200 倍 24 時間浸漬
- ・テクリードCフロアブル 200 倍 24 時間浸漬
- ※薬剤浸漬の水温は10~15℃で実施しましょう。

極端な高温・低温は薬害、効果不足、発芽不良などが起こりやすくなります。

全農ちばホームページ 種子消毒紹介動画公開ページ (下段の「おすすめ」に掲示中)





3. 浸種について

浸種時の水温目安は種子消毒同様、 $10\sim15$ で実施しましょう。積算水温 100 でを目安に(水温 10 でで 10 日間)水に漬け、十分に吸水させましょう。

種子消毒の効果を高めるために、浸種後3日目までは水の交換はせず、4日目以降に水を交換しましょう。

※「低温貯蔵種子」でも浸種を長めにとる必要はありません。

千葉県産の4年産種子・3年産種子とも発芽に差はありません。

(情報提供:千葉県農林総合研究センターより)

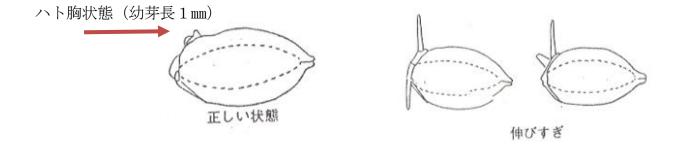
種子消毒・浸種・催芽スケジュール例



※浸種4日目以降は、毎日水交換を行っても良い。(浸種水温の上昇を防ぐ・酸素供給のため) ※微生物資材(エコホープD」など)を使用する場合、種子消毒後に風乾(陰干し)しない。

4. 催芽について

発芽を揃えるため、浸種後に催芽をおこないましょう。 温度(水温)30℃以下で24時間を目安に幼芽長1mm以内で完了です。



5. 培土消毒

培土消毒は育苗中に発生する苗立枯病(カビ)や、細菌病を予防するために行います。

- (1) 細菌性病害が心配される場合はフタバロンA粉剤を使用しましょう。
- ア.播種前の床土への灌水はタップリと行いましょう。播種直後の覆土への灌水は行いません。
- イ.薬剤と育苗用土の混和は、使用量をきちんと守り、播種7日前~播種直前に実施しましょう。 (培土20リットルに対して「フタバロンA粉剤」100gを均一に混和)
- ウ.薬剤は**「覆土」のみ**に行いましょう。
- ★床土の灌水と、播種後の覆土が少ないと「根上がり」しやすくなるので注意しましょう。

(2) 苗立枯病(カビ)と防除薬剤について

育苗箱に発生する苗立枯病の種類と病徴及び発生条件

病原菌	病 徴	発生条件	薬剤名
リゾープス菌	箱の表面全体に白〜灰色のカビが拡がる。	出芽時の高温(35℃以 上)・多湿	ナエファインフロアブル ダコレート水和剤 ダコニール 1000
フザリウム菌	籾の周りに白〜ピンク色の カビが生じる。	播種後の低温及び 乾燥と過湿の繰返し	ナエファインフロアブル ダコレート水和剤 タチガレエースM液剤
トリコデルマ菌	地際部に白カビが生じ、そ の後青緑色カビに変わる。	出芽時の高温 (30℃前後)	ダコレート水和剤
ピシウム菌	坪枯症状をおこす。萎凋し 下葉から褐変枯死する。	緑化期以降の低温	ナエファインフロアブル タチガレエースM液剤



リゾープス菌(白色)



フザリウム菌(ピンク色)



トリコデルマ菌(緑色)





ピシウム菌 (坪枯れ・褐変)

6. 育苗時の温度管理

平置き育苗は播種後~出芽まで昼間 $20\sim30$ °C、夜間 $10\sim20$ °Cの温度の確保が必要です。 しかし、3月下旬の播種は育苗時に低温になる期間が多く、出芽の遅れや病気が発生する リスクが高くなります。健全な育苗のために、被覆資材で保温し温度管理をしっかりと 行いましょう。

育苗時の温度管理

		Н	 : : 芽	4∃ //₄	であった。
		加温出芽	無加温出芽	緑化	硬化
E	数	2日	5日前後	2~4日	15~20日
	を置く 易所	育苗器	ハウス	育苗器 ハウス	ハウス
温	昼	30°C	20 ~ 30°C	20 ~ 25°C	25°C以下
度	夜	30°C	10 ~ 20°C	10 ~ 20°C	5 ~ 10°C

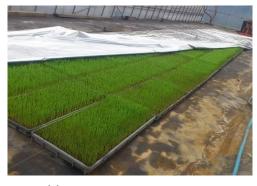
○省力被覆資材「太陽シート」について

「太陽シート」は、被覆内の日中の高温防止と夜間の保温を同時に行い、発芽適温を保つ資材で、緑化期までのハウスの換気作業を軽減することができます。

低温期では温度を高める効果は期待できないため、ハウス内が 10℃以下になることが予想 される場合は、太陽シートの上、または下に手持ちの被覆資材で 2 重掛けを行い、事前に保温 に努めます。

また、播種後、太陽シートを被覆する際に、ハウス内および地温を高めておく事で、保温 効果を発揮させることができます。





太陽シート利用の様子

園芸野菜 病害虫防除情報

JA全農ちば 営農支援部

1. はじめに

春夏作物の準備時期となりました。気象庁発表の1か月予報によりますと、3月は気温が高め、 降水量が少なめで晴れの日が多くなることが予想されています。あたたかくなり、病害虫ともに 急激な増加の恐れがありますので、注意して防除を行いましょう。

2. 各作物苗床 一 苗立枯病

(左) ピシウム菌被害(右) リゾクトニア菌被害

主にピシウム菌やリゾクトニア菌 が原因で、育苗初期に発生し、茎の地 際部分が腐敗してやがて倒伏します。 高温多湿条件で発生しやすいため、過 度な灌水や密植は避け、換気を行いま しょう。



- ・ピシウム菌被害の特徴 : 地際付近が褐色に変色し、軟らかく軟腐状になる。
- ・リゾクトニア菌被害の特徴:地際付近が褐色に変色し、くびれて細くなる。
- ○苗立枯病 防除薬剤例(使用時は各作物の登録内容をご確認ください)

対象病害	FRAC コート	薬剤名	使用方法
苗立枯病	M4	オーソサイド水和剤 80	_
	M5	ダコニール 1000	散布または灌注処理
田立竹州(サノクトー)国)	14	リゾレックス水和剤	

3. スイカ ー うどんご病

うどんこ病は苗床から持ち込んでしまうこともあります。発生は中段以下 の葉から始まるため、発生初期を見逃さないように注意しましょう。苗の段 階で明らかに被害が見られる場合には使用を避けるか、定植後に下表治療剤 を参考にして殺菌を行いましょう。定植後はベルクートフロアブルでの予防 を基幹とし、着果後の急速な蔓延に備える早めの対策を心がけましょう。



🚻 スイカーうどんこ病 防除薬剤

対象病害	FRAC コート	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
	M7	ベルクートフロアブル	1000	_	4回以内	予防
うどん	3	トリフミン水和剤※	$3000 \sim 5000$	収穫前日	5回以内	予防・治療
こ病	3+U6	パンチョ TF 顆粒水和剤※	2000	まで	2回以内	予防・治療
	50	プロパティフロアブル	3000~4000		3回以内	予防・治療

※トリフミンとパンチョは同成分を含むため成分総使用回数に注意

4. トマト・ナス ー 葉かび病・すすかび病

多湿条件で発生します。下葉から発生してきますが、潜伏期間が 長いため発病葉の数段上の葉まで感染していると考えます。発病が 見られた場合、発病葉は除去し、可能な限り下葉かきによって株元 の通風をはかりましょう。また、発病後の薬剤散布は治療剤を選択 しましょう。





トマト 葉かび・すすかび病 防除薬剤

対象病害	FRAC コート゛	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
本スマド	M7	ベルクートフロアブル	2000~4000		3回以内	予防
葉かび・ すすかび病	7	アフェットフロアブル	2000		3回以内	予防
9 9 MOYA (アミスター	7+11	シグナム WDG ※2	2000	収穫前日	2回以内	予防・治療
は葉かび病	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000~3000	まで	3回以内	予防・治療
のみ)	11	アミスター20 フロアブル	2000	_	4回以内	予防・治療
~ <i>></i> >> <i>></i>	3	トリフミン水和剤 ※1	3000		5回以内	予防・治療

※1 トリフミンは「葉かび病」は3000~5000 倍



ナス すすかび病 防除薬剤

対象病害	FRAC コート	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
	M7	ベルクートフロアブル	2000		3回以内	予防
	7	アフェットフロアブル	2000		3回以内	予防
すすかび病	7+11	シグナム WDG ※2	$1500 \sim 2000$	収穫前日	3回以内	予防・治療
9 9 27-0913	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000	まで	3回以内	予防・治療
	11 <u>ア</u>	アミスター20 フロアブル	2000		4回以内	予防・治療
	3	トリフミン水和剤	3000		5回以内	予防・治療

※2 シグナムはカンタスと同成分を含むため成分総使用回数に注意

5. にんじん ー ヒョウタンゾウムシ類

ヒョウタンゾウムシの多くは、圃場外から歩いて畝内へ侵入してきます。マルチの隙間や土の塊の下に潜っていることが多いです。 トンネル除去前後の発生状況を確認しつつ、成虫防除として下表の 薬剤を散布しましょう。なお、下記の薬剤は成虫に直接かからないと効果が 期待できないため、ムラなく散布するよう心がけましょう。



にんじん ヒョウタンゾウムシ類 防除薬剤

対象害虫	IRAC コート	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用方法	備考
ヒョウタン	13	コテツフロアブル	2000	収穫前日	2回以内	成虫防除剤
ゾウムシ類	22B	アクセルフロアブル	1000	まで	3回以内	成虫防除剤



果樹(ナシ)病害虫防除情報



J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

今年の桜の開花時期は平年よりもだいぶ早くなると予想されています。【桜開花予想 (2月22日現在):東京3月17日 (平年-7日)・銚子3月23日 (平年-7日)】同様に、ナシの開花時期についても平年より早まる可能性がありますので、花芽の様子や気象状況をよく確認し、作業が遅れないように注意しましょう。

2. ナシマルカイガラムシ・その他カイガラムシ類

主に枝に寄生し、吸汁加害します。発生密度が高いと果実表面にも寄生するため、商品価値を低下させます。発生密度を抑えるためには、春先のマシン油乳剤散布が重要です。これは、カイガラムシ類のほかにも、ハダニ類やニセナシサビダニの防除も兼ねます。しかし、薬剤が虫体に付着しないと効果が期待しにくいため、発生している樹には散布ムラのないよう、丁寧(特に枝上面や分岐点部分)に散布しましょう。





(1)薬剤防除

○3月上旬ごろ

ハーベストオイル 50~200 倍 (発芽前)

+

<mark>アプロー</mark>ド水和剤 1,000 倍 (収穫 30 日前まで・2<mark>回以内)</mark>

※ハーベストオイルほかマシン油乳剤は発芽前に散布する※アプロードはナシマルカイガラムシ多発園で加用(同時散布)する※アプロードはフロアブルでも可

3. 黒星病・アプラムシ類

各防除適期(りん片脱落期から交配終了後まで)を逃さないようにしましょう!

(1) 耕種的防除(黒星病)

芽基部に発病が見られた場合は基部から切除しましょう。また、 黒星病が発生した落葉は、そこから胞子が飛散し、伝染源になりま す。園内に残っている落葉は、土中に埋めるか園外に持ち出して処 分しましょう。



農作業安全管理機による巻き込まれ事故注意! 食の安全安心農薬の調合順序①展着剤②乳剤③フロアブル・水和剤の順 ※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援部

(2) 薬剤防除

①りん片脱落期(3月下旬ごろ~)

・トレノックスフロアブル 500 倍 (収穫 30 日前まで・5 回以内)

または

<mark>・デランフロ</mark>アブル 1,000倍 (収穫 60 日前まで<mark>・4回以内)</mark>

早い品種の花 芽がこれくら い開いてきた ら防除





②りん片脱落終了後~開花直前(4月上旬ごろ)

<mark>マネージD</mark> F 6,000 倍 (収穫 21 日前まで・<mark>3回以内)</mark>

<mark>トレノック</mark>スフロアブル 500 倍 (収穫 30 日前まで・<mark>5 回以内)</mark>

+

+

ウララDF 2,000 倍 (収穫 14 日前まで・2 回以内)

※混植園の散布目安は開花の早い品種(豊水など)のりん片脱落終了後~開花直前

③開花中【臨機防除】(長雨や強雨の影響で追加防除が必要な場合)

トレノックスフロアブル 500 倍 (収穫 30 日前まで・5 回以内) ※散布当日は受粉作業を行わないこと

④交配終了後(4月中下旬ごろ)

<mark>スコア顆粒水和剤 4,000 倍 (収穫 14 日前まで・3 回以内)</mark>

+

トレノックスフロアブル 500 倍 (収穫30日前まで・5回以内)

+

バリアード顆粒水和剤 4,000 倍 (収穫前日まで・3回以内)

(3) アブラムシ類被害について

アブラムシは3月下旬ごろから飛来し始め、展葉期ごろから、右写真のように葉が縮れて内側に巻くような被害が現れます。発生すると急激に増殖するため、抜け目ない防除を実施しましょう。



「農福連携」事例のご紹介 ~福田さん家の梨園の仕事~

J A西印旛経済部営農指導渉外課 J A全農ちば営農支援部

1. 取組み背景

福田氏は1人で80aの梨園を経営し、年々作業の遅れを痛感していました。千葉県のおためしノウフク事業の提案をうけ、令和2年度に梨作業の一部を福祉事業所に依頼しました。福田氏は特別支援学校の教諭という経験から、障がいを持つ方が農作業をすることに対して積極的に連携したいという意気込みがあり、令和2年度におためしノウフクを実施、翌年には福祉事業所と契約を結び正式に作業依頼を開始しています。

2. 作業について

(1) 実績・作業風景

年度	作業内容	期間	延べ人数
R2	伴線の針金取り ロープとり	9日間	55 人
R3	ロープとり	7日間	53 人

- ・作業時間は午前中2時間と午後2時間 休憩は午前と午後に一回ずつ15分間
- 作業員:職員1名+障がいを持つ方3~5名



(2) 福田氏(農業側)の取り組む姿勢

作業で使う道具は園主が準備し、作業を分かりやすく福祉事業所職員へ指示します。作業員 (障がいを持つ方) は作業が丁寧で、慣れるとどんどん速くなります。そのためには働きやすい職場をつくり、作業員のやる気を向上させることが大切です。具体的には、休憩時にお茶菓子を差し入れたり、作業員への積極的な声掛けです。福田氏は福祉との連携を半分仕事半分交流と考えており、一緒に作業することが楽しみになっているようです。

仕事を依頼した結果、剪定作業に入る時期が早くなりました。他作業(剪定枝拾い)も依頼 したいが、時期的に園内地面が滑りやすくなり危険と判断し実施はしていないとのこと。作業 内容については今後も福祉と協議して増やしていく予定です。

(3) 福祉事業所の取り組む姿勢

仕事は受けたからにはきっちりこなすように作業員に指示・指導を行います。福祉事業所職員は福田氏と事前協議した作業内容を明確化し、作業に適する作業員を同行させます。立ち作業が多いため、午前と午後で作業員の入替えを行っています。どの職員がどの現場にいっても作業効率が一律になるよう努めています。

作業員は作業に行く日を楽しみにしており、福田氏の気遣いにも大変感謝しているようです。この取組みで、作業員が楽しんで働ける地域との関わりができ、かつ福祉を知ってもらういい機会になると考えています。

3. 今後の展開

当取組は福祉分野と連携することで、労働力の確保・作業環境の見直しを図ることができるという1成功事例です。産地全体を考えたとき、多様な生産者・福祉・他分野をどのように結びつけて、農業生産を拡大していくかを JA グループ・生産者は考える必要があります。他分野との連携により"農業経営強化""産地拡大"し、農業を核とした地域活性化につなげていきたいと考えています。

農作業安全管理機による巻き込まれ事故注意! 食の安全安心農薬の調合順序①展着剤②乳剤③フロアブル・水和剤の順 ※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援部

安全な農作物生産の取り組みについて ~改善をつづけるために~

J A全農ちば 営農支援部

1. 安全な農作物生産の取り組みについて

本営農情報集では、1年にわたり『安全な農作物生産の取り組みについて』の情報を掲載してまいりました。コロナ禍によって、消費者の食の安全・安心への関心はより一層高まってきており、生産現場にはリスク管理とそのさらなる改善活動が求められています。今一度、取り組み内容を振り返り、より高度な安全な農作物生産を目指していきましょう。

2. PDCAサイクルについて

食品安全・環境保全・労働安全に関する法令順守を徹底するためには、取り組み内容の計画・実施・点検・改善を繰り返していくことが重要になります。これらを継続することで安全な農作物生産を行うことができます。



※画像引用:農林水産省HP「これから始めるGAP」より

3. 営農情報集バックナンバーについて

過去に発信した営農情報集は、下記 HP にて公開しておりますので、ご参照ください。 HP リンク: https://www.zennoh.or.jp/cb/producer/einou/ (JA 全農ちば公式 HP) ※一定時間が経過すると非公開となります。確認したい内容がございましたら営農支援部までお問い合わせください

5月号: 異物混入防止	6月号:食中毒対策	7月号:熱中症対策
8月号:農作業事故防止	9月号: 農薬散布記録簿の記入	10 月号:農薬散布器具の洗浄
11 月号:農薬散布時の服装	12 月号:農薬・肥料の保管	1月号:燃料の保管
2月号: 堆肥の管理		

農作業安全管理機による巻き込まれ事故注意! 食の安全安心農薬の調合順序①展着剤②乳剤③フロアブル・水和剤の順